

重点目標	評価項目	基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果	総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等
感じたことや考えたことを自分なりに表現し豊かな心を持つ	【0, 1歳児】 仕草や動き、片言で自分の思いを表現しようとする	4	簡単なやりとりをもって一緒に楽しむ	3.5	4	自分の思いを伝えようとする	4	A (3.8)	・毎日の生活や遊びの中で、一人一人の行動や思いをありのまま受けとめ、信頼関係を築き、安心して子どもたちは自分の思いを表現するようになった。 ・保育者や友だちの言葉を真似て「かして」「ありがとう」「いっしょにあそぼ」「いやだ」など、簡単な言葉のやり取りで関わりも広がってきた。今後も一人一人の心情に合わせて丁寧に接し、子どもが表現しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。
		3	思いを受け止め共感する		3	自分なりに表現しようとする			
		2	一人一人に寄り添う		2	保育者に親しみをもつ			
		1	安心できる場所をつくる		1	保育者の傍で安心して過ごす			
	【2歳児】 いろいろな遊びをやってみようとする	4	子どもの興味関心に沿って保育を進める	3.6	4	身近なこと（人）に興味を持つ	3.3	A (3.5)	・朝のホール遊びを継続して行った。そこで、体操やリトミックを楽しむことで、個での遊びが、友だちとの遊びに広がっていった。 ・子どもたちは「〇〇の体操して」とリクエストをするほど楽しみ、友だちと一体感を味わうことの喜びを感じていた。 ・日々の生活の中で、子どもの様子や会話などから、興味を持っていること、好んでいることを見つけて保育に取り入れていった。ごっこあそびなどイメージを共有して、遊びが展開できるようにしていった。
		3	満足感が味わえるように応答的に関わる		3	やりたい遊びを見つけて遊ぶ			
		2	好きなことで遊べる環境を整える		2	好きな遊びを楽しむ			
		1	安心して過ごせる雰囲気作りをする		1	安心して過ごす			
	【年少組】 感じたことや考えたことを、自分なりの方法で表現できるようにする	4	幼児なりの言葉や態度で遊びを楽しむ	4	4	身近な友だちと表現遊びを楽しんでいる	4	A (4)	・安定した温かい人間関係の中で、信頼関係が築け、子どもたちそれぞれが自分なりの表現をするようになった。一学期は自分の世界を楽しんでいることが多かったが、友だちとペアになり歌遊びなどを行っているうちに、2学期の後半からごっこ遊びが見られるようになった。 ・3学期になると言葉を交わしながらイメージを共有し、友だちと遊ぶ姿がみられた。パレードでも自分の役になりきりイメージを膨らませ楽しんで演じていた。
		3	幼児の素朴な表現を遊びにつなげていく		3	様々な表現で遊びを楽しんでいる			
		2	幼児の表現を受け止め、言葉にして返していく		2	気持ちを身ぶりや態度で表現するようになった			
		1	幼児の表情をみて、言葉にならない思いに気づく		1	安心、安定した気持ちで過ごす			
	【年中組】 遊びの中でやりたいことや考えていることを、いろいろな方法で表現しようとする	4	思いを言葉で伝え合う楽しさを感じられるよう遊びの内容を工夫する	4	4	友だちと思いを共感したり考え合ったりすることに楽しさを感じるようになった	4	A (4)	・自由遊びの時間に、好きな遊びが楽しめるような環境の構成に努めたことで、子どもたちから遊びに必要なものや、したいことを言葉で発信するようになっていった。 ・2学期にお店屋さんごっこをするにあたり、どんなお店にするのか、何が必要か、どんな役割があるのか等、子どもたちで話し合い、意見を出し合ってすすめた。友だちが発言したことに対して、「それいいね」などと認め合う声が聞かれ、共通の目的をもって遊びが楽しめた。
		3	保育の振り返りや記録の分析から、幼児の思いを推測してみる		3	思いが伝わったり、受け止められたりすることに満足感を味わうようになった			
		2	幼児なりの表現を受け止め、言葉にして返していく		2	幼児が思いや知っていることなどを伝えるようになった			
		1	保育者も一緒に遊び、幼児の表情や思いを読み取る		1	幼児が安心して過ごせるようになった			
	【年長組】 様々な体験を通して、豊かな感性を育み、表現することを楽しむ	4	幼児同士が影響しあい心に響きあえるような環境を工夫する	4	4	友だちと共通の目的に向けて、工夫したり協力したりし、表現することを楽しめるようになった	4	A (4)	・子どもたちからのアイデアや工夫を取り入れ、生活や遊びを進めたことにより、みんなで共通の目的に向かって主体的に取り組み、やり遂げることができた。その中で、友だちの良い所を見つけて認め合う姿もたくさん見られた。そのような振り返りの場をもつことが大切であると、改めて気づくことができた。 ・話し合いの時間を十分にとることで、互いに影響し合い、考えがまとまったり、深まったりしていく姿が見られた。
		3	幼児がイメージを広げたり様々な表現をしたりできるような環境づくりを工夫する		3	自分のイメージを自分なりに工夫して表現できるようになった			
		2	活動の振り返りの時間を設け、個々の成長をとらえる		2	心が動いた出来事などを友だちや保育者につたえるようになった			
		1	幼児の感情や、やりたいことを表現しようとする姿を温かく見守り共感する		1	安定した気持ちで生活を楽しめるようになった			
総括	・今年度は、人権の研究会（公開保育）を本園で開催するにあたり、子ども主体の保育について研修を重ねた。子どもの生活や発達を見通した遊びの展開を心がけ、保育に取り組んだことにより、子どもたちから様々な言葉や動きによる表現が見られた。今後も、日々の保育を大切に、子どもたち一人一人が自分らしく生活できる環境の構成や援助に努めていきたい。								

